

## 第 5 回 瑞穂市地域福祉計画策定委員会等 会議要旨会議録

<b>会議名</b>	第 5 回 瑞穂市地域福祉計画策定委員会・ 第 4 回 瑞穂市地域福祉活動計画策定委員会
<b>開催日時</b>	令和 3 年 2 月 18 日（木）13 時 30 分～
<b>会場</b>	瑞穂市総合センター 2 階 交流ルーム
<b>出席者</b>	委員：12 名（欠席者：国枝委員、渡邊委員、竹本委員） 事務局：健康福祉部長、地域福祉高齢課長、総括課長補佐、社会福祉協議会職員
<b>次第</b>	1 開会 2 あいさつ 3 議事 （1）パブリックコメント結果の報告について （2）地域福祉計画・地域福祉活動計画（案）について 4 その他
<b>配布資料</b>	・ 第 5 回瑞穂市地域福祉計画策定委員会・第 4 回瑞穂市地域福祉活動計画策定委員会次第 ・ 地域福祉計画・地域福祉活動計画（案）
<b>議事概要</b>	1 開会 事務局の進行で開会 2 あいさつ 平塚健康福祉部長よりあいさつ 3 議事 豊田会長の進行のもと、事務局より資料の説明。その後質疑応答 4 その他 事務局から冊子印刷について報告

## ■議事要旨

### パブリックコメントの結果について

豊田会長：事務局から説明をお願いしたい。

事務局：地域福祉計画に関するパブリックコメントを実施したが、提出された意見はなかった。

### 地域福祉計画・地域福祉活動計画（案）について

豊田会長：事務局から計画案について説明をお願いしたい。

事務局：地域福祉計画・地域福祉活動計画（案）について説明。

豊田会長：それでは事務局の説明に対してご意見があればお願いしたい。計画資料編に委員名簿があるのでご自身の名前の確認をお願いしたい。間違いがないようなので、この計画案を承認いただけるか、承認される方は挙手をお願いしたい。

（委員全員挙手）

豊田会長：当委員会として、本計画案を承認させていただいた。

それでは、今後の地域福祉の推進に関してご意見をいただきたい。

林委員：どこの団体も同様かもしれないが、組織の拡充が難しい。新しい活動をする、人を確保することが個人情報保護との関係から難しい。しかし、地域福祉計画・地域福祉活動計画を踏まえて、前向きに取り組んでいきたい。

山本委員：計画の19ページになるが、老人クラブとしての会員数が減少している表が掲載されている。これから令和3年度の活動を進めていくが、新型コロナウイルス感染症の影響で、どのような展開になるかわからない。どのように対応していくか困っている。行事が全くできなくなると会員の減少につながる危惧を感じている。老人が大きな声で皆と会話したり、ゲームをしたりするのが生きがいにつながるかと思うが、それができない状況に心を痛めている。

馬淵委員：策定委員会で計画を綿密に練られ、その上に立って様々な施策を進めていることをこの策定委員会をとおして勉強させていただいた。赤十字奉仕団の代表として参加させていただいており、赤十字の活動と相通じるところもあり、会員の方に少しでもお話をし、意義ある活動をしていることを認識していただけるよう場を設けていきたいと思う。

東海委員：残念に思ったことは2ページにあるが、地域福祉計画は福祉分野の幹のようなものと認識していた。子どもに関わる仕事をしているので、子どもの話ができると思っていたが、子どものことは令和元年度に子ども・子育て支援事業計画を策定しており、枝葉の子育ての部分はできてしまっているのに、変えようがないと感じた。順番的には地域福祉計画を策定し、そこから枝の部分策定することが順番ではないかと感じている。児童分野で知っていただきたいこととして、国・県からの要望で児童養護施設の定員を削減し、家庭的な養護を目指してホーム化しよう要請が来ている。国と県で里親を増やすので、施設は定員を削減しよう要請されている。私の関わる児童養護施設もホーム化を目指して定員を削減しているが、一方、里親が増えているかという、岐阜県では里親の認知度が低く、数も増えていない状況にある。そのため受け入れられる子どもの受け皿がどんどん減っている。今後は在宅で支援を受ける方向しかない。在宅での支援すべてを子どもセンターでまかなうことはできない。そうすると市町村への負担が大きくなる。児童虐待相談件数も10年前では全国で4万件であったものが令和元年度では16万件を超えている。そういった面を児童に関わる者として危惧を覚えている。今後、市で子育て支援課を立ち上げられるそうなので、私たちもできる限り協力したいと思うので、よろしく願いしたい。

玉城委員：今までもこうした計画策定に関わらせていただくことはあったが、計画に対する実践をやれなかった。法人の中につくる指針も同様で、それに沿って活動していくということができていなかった。この計画を読み込みながら、自分が関われる範囲になるが、計画の共有であったり、瑞穂市の中でできることを真剣に考えて、進めていければと思う。

児玉委員：これまで地域福祉計画と地域福祉活動計画を別に策定していたため、どうしてもつながりが悪い面があった。一体として考えていけるような体制で進められればと思う。

石谷委員：地域福祉計画をもとに、若い人も含め、地域に広めていければと思う。多分、広報等で周知されても、見ない人が多い。相談を受けた際にでも広めていければよい

と思う。

水谷委員：ボランティアとして参加し、活動している中で、現場しか知らなかったのも、上位計画である地域福祉計画に対するコメントはあまりできなかったが、子育て世代の30代、40代の悩みやボランティアに関心のある方と直につながっている立場として、こうした計画があることを伝えたり、相談窓口やこの会議で知ったことを、口コミで広めていく手伝いができればと思う。

麓委員：パブリックコメントで意見がなかったことに危機感を覚える。この計画が市民に伝わっていない。本当に困っている人たちはたくさんいて、例えばアンケートが来れば回答するので、課題は見えてくるが、本当にそれだけなのか。この計画は大事な計画なので市民参画は重要であるが、世の中での状況や経済状況も変わってくる中、その時その時によって、流動性をもたせるとか、横のつながりが重要だと思う。今回の新型コロナウイルス感染症のワクチンも医療従事者が先行し、次が高齢者となっているが、ひとり親世帯はどうするのかと感じました。国の政策上ふるいにかけられていると感じる。瑞穂市で全体的な福祉が必要だと思う。

豊田隆夫委員：上位計画ということで、非常に多岐にわたっている。今回、5回目の会議になるが、5回でこれだけの内容を協議することは並大抵のことではない。計画の内容が多岐にわたることからパブリックコメントで意見も出しにくい気がした。もう少し絞り込めたらと思う。計画の文言をみると、「図ります」や「計画します」といった、いつまでにやるのかわかりにくい気がする。いつからやるのかを入れてほしいと思う。

畦地副会長：計画について大綱のあり方というか、網ができたことは評価できる点だと思う。以前は地域福祉計画と地域福祉活動計画と市と社協で別の計画で動いていたのが、今回から市と社協の施策が一体となって動くことはよかったと思う。パブリックコメントで意見がないというのは、市民に対しての広報、周知、情報提供が上手くいっていないことの現れではないか。それにより取りこぼされている人、知らなかったという人、そういったこと自体を知らない人がかなりいることが危惧すべき点だと思う。どう周知していくべきかが最大の課題と思う。瑞穂市のよいところは結束の強いところだと思う。妻が体調不良になった際に、子ども会の方や自治会の方が助けてくれる。地域の中に入れていただいているが、そこから離れている人もかなり多いのではと考えると、地域の結束力が強いことはよい面だが、そこから外れている人に福祉の手が伸びているかどうか。市と社協で市民のそういった取りこぼしがしないような動

き方、そのための活動計画をつくったということになるので、計画に立ち返って動いていただければと思う。

豊田会長：以上で計画していた議事はすべて終了し、委員の皆様の協力で計画策定までこぎつけることができた。ご協力ありがとうございました。

事務局：長い間の今回から市の地域福祉計画と社会福祉協議会の地域福祉活動計画を一体化させていただいた。今後、一体化した意味を踏まえて、皆様のご協力を得て、地域福祉を推進していきたいと思う。今後、冊子として印刷し、委員の皆様にお届けする予定となっている。これをもって地域福祉計画と地域福祉活動計画の策定委員会を閉じさせていただく。

以上